

—第13編— サントリーニ島^{*1}最大の集落、フィラ

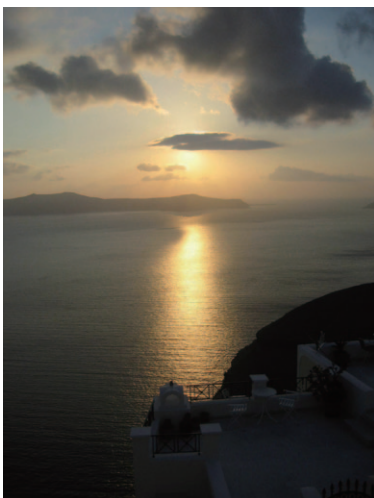


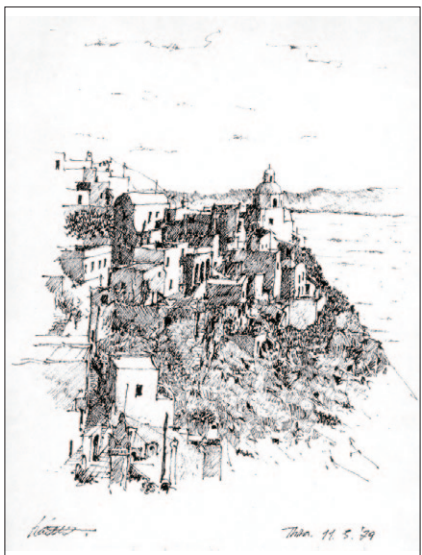
写真13-1 夕日に染まるサントリーニ湾

ざした家々からなる集落の底知れぬ魅力を味わうためであった。島々の小さな港を渡りながら友と共有した20代の思い出の背景には、いつもこうした美しい集落と素朴な生活文化があった。なかでも圧巻はサントリーニ島最大の集落フィラである。海底火山の爆発でできた円形の湾。そこを取り囲む急斜面の足下に船着き場はある。そこか

ら徒歩カロバに乗って急峻な坂道を上る。ほとんど息を切らしながら遙か眼下に海面を見下ろす頃、その白い集落は崖の上に具体的な姿を見せ始める。そこに広がる圧倒的な群造形。迷路のような路地。厳しい地形と一体化し、他に類を見ない魅惑的なみち・集落空間を内蔵した集落である。断崖を上り詰めて何をさておき飛びついたピールを片手に、スケッチブックを取り出した。以下はその時のメモの抜粋である。

「中東に長く滞在した後のエーゲ海は、干上がった土漠の彼方に出会う木陰に似て、みずみずしく素朴な安息に満ちていた。船着き場から急な葛折れの坂道を驢馬の糞にまみれた石畳に足を取られながらも一気に登り詰め、やっとの思いでありついたガラスのピールを片手に観る初夏のフィラである。西側の黒い断崖に屹立する白い集落の連続は沈みゆく夕日の朱の光線に染まり（写真13-1）、思いの外和やかで親しげであった。沸き上がる興奮に身をまかせ、荒い息づかいにもかまわず、かすれ始めたサインペンを走らせた。（図版13-1）」

島の反対側に展開するなだらかな地勢上にも、小さな集落群が点在する。それらを含めて、歩き回ってのみ実感できる島の集落の多様な表情は、今も決して旅人達の期待を裏切らない。



図版13-1 島最大の断崖集落、フィラ

*1

Santorin

(別称 Thira): キクラ

デス諸島最南端の島

*2

Aegean Sea: 古代ギリシヤ語で「エーゲ」は波の意